

平成19年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 やや多 並 並 やや少 多	やや少 やや多 並 並 並 多
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや多 並 多	やや多 並 多
レタス	灰色かび病 菌核病	並 やや少	並 やや少
たまねぎ	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G. cingulata</i>) 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	やや多 やや多 並 やや少 並 並	やや多 やや多 並 やや少 並 並
かんきつ	ミカンハダニ アカマルカイガラムシ	やや少 並	やや少 並

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.6%(2.3%)、発生圃場率41.7%(35.9%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.5%(2.2%)、発生圃場率58.3%(37.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難になるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.8%(0.9%)、発生圃場率8.3%(17.4%)であった。

4. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.6%)、発生圃場率は8.3%(7.6%)であった。

6. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.6%(0.9%)、発生圃場率は75.0%(19.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

平成19年11月16日付病害虫発生予察防除情報第13号を参照。

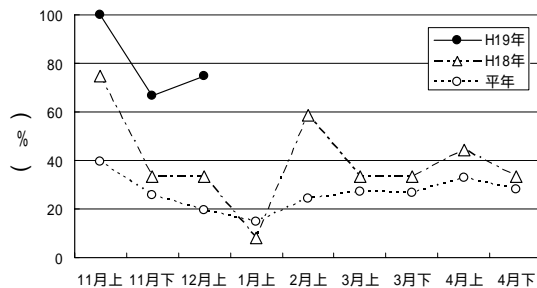


図 きゅうり コナジラミ類 発生圃場率の推移

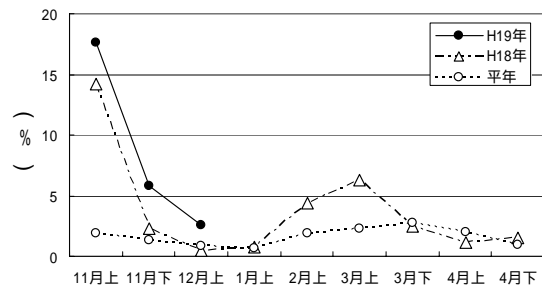


図 きゅうり コナジラミ類 寄生株率の推移

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.9%、発生圃場率は33.3%(前年発生を認めず、前々年の発病株率0.0%、発生圃場率8.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

平成19年11月16日付病害虫発生予察防除情報第14号を参照。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.3%)。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は4.3%(0.7%)、発生圃場率は33.3%(17.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

平成19年11月16日付病害虫発生予察防除情報第13号を参照。

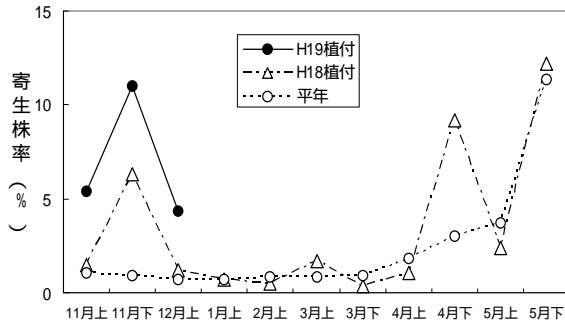


図 トマト コナジラミ類寄生株率の推移

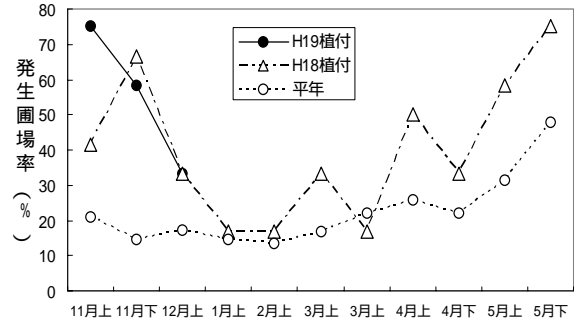


図 トマト コナジラミ類発生圃場率の推移

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.9%)。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は6.7%(22.9%)であった。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は11.5%(9.3%)、発生圃場率60.0%(40.2%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉では発病株率は1.3%(0.5%)、発生圃場率14.8%(9.3%)、果実では発病果率0.1%(0.2%)、発生圃場率3.7%(5.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害果は取り除き、速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

イ 病勢が進行すると防除困難になるため、早期発見・早期防除に努める。

ウ 薬剤は、薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布するとともに葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(2.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病および枯死した株は感染源となるので速やかに圃場外へ持ち出し、圃場周辺に放置しない。

3. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.7%(5.0%)であった。

4. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(2.1%)、発生圃場率は11.1%(15.7%)であった。

5. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は4.4%(3.3%)、発生圃場率は18.5%(20.1%)であった。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2%(0.2%)、食害発生圃場率は33.3%(24.5%)であった。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

11月下旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は2.6%(7.8%)、発生圃場率は41.0%(51.1%)であった。

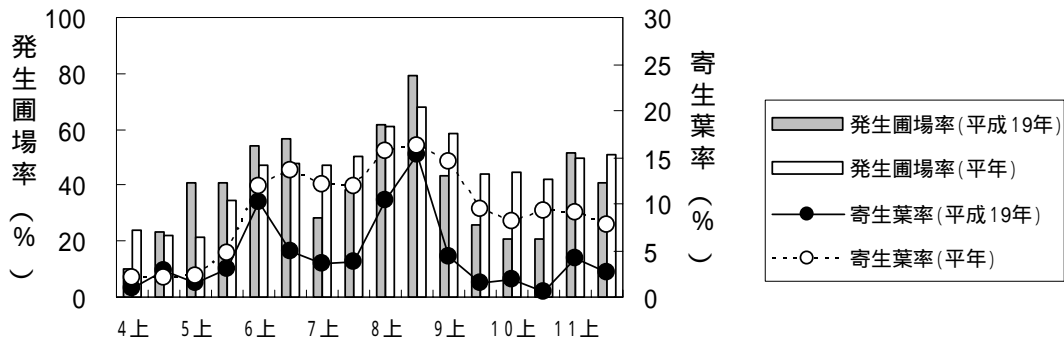


図 巡回調査におけるミカンハダニの発生状況

2. アカマルカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月に実施した「温州みかん果実の病害虫発生状況調査」の結果、早生温州における寄生果率は1.1%(平成16年~18年の平均値1.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

地域や園によっては多発生している圃場が見られる。そのような圃場ではマシン油乳剤を散布すると防除効果が高い。ただし、樹勢低下園では落葉を助長することがあるので散布を控える。

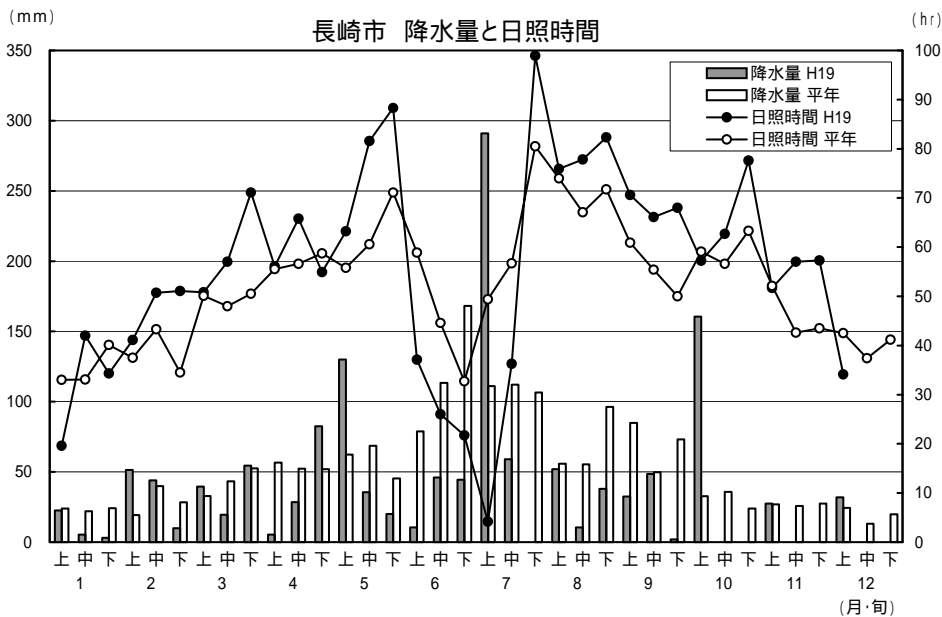
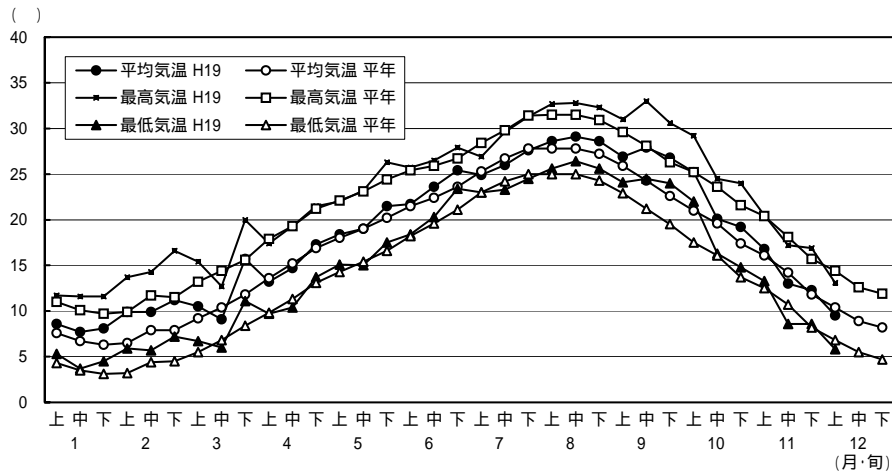
【参考】
気象

(平成19年12月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成19年の気象経過(長崎海洋気象台)



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準(適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数)及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

文中の市町村名は合併前で表記しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム(一部会員制アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>)やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp